

令和 7 年度 園評価書

園番号 25 園名 東豊田中央こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
「好きがいっぱい心豊かに表現する子」	「好きを思う存分楽しみ 自信をもって表現する」	自分の好きな遊びを見つけて、考えたり、試したりしながら思う存分遊びを楽しんでいる	自分の好きな遊びがあり、園庭に出るとすぐに遊び始める子、昨日の続きを始める子、継続して同じ遊びをする子が増えた。特に幼児の製作遊びでは、作る過程を試行錯誤しながら楽しむ姿がある。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの言葉や態度で素直に表現する姿 (伝える力) ・友達と一緒に考える姿 (練り上げる力) ・子ども同士で認め合ったり、励まし合ったりする姿 (認める力) 3つの『東豊力』が子ども達に育ってきている。職員が手厚く子どもに接し、今ある状況の中で最善を尽くして教育・保育活動に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が子どもたちと一緒に遊びを楽しみ、共に遊びを追求していく ・遊びが持続する環境について月に1回話し合いを行うだけでなく、話し合いをしながら環境づくりを行っていく ・子どもたちが自分の思いを受け入れてもらう体験を積み重ねることで、自分から思いを発信できるようにする ・保育者が肯定的な受け止めをすることで、友達のことを受け入れ優しく接したり、優しい言葉を選んで使ったりする姿を育てていく
		「やってみよう」と様々なもの、ことに興味を持ち、取り組もうとしている	子ども自ら素材を選び、自由な発想で試したり工夫したりして遊ぶ姿が見られる。また、一緒に遊びたい友達を自分で決めて楽しむ姿もある。「やってみよう」を繰り返す中で自信がついてきたが、初めてのことや苦手なことに消極的な子もいる。	B	B		
		保育者や友達と好きな遊びを楽しむ中で自分の思いを言葉や態度で表現している	保育教諭が子どもの思いを理解し支えることで、楽しいことだけでなく嫌なこと、悔しい気持ちなど自分なりの言葉や態度で素直に表現している。友達と一緒に考える姿、子ども同士で励まし合ったり認め合ったりする姿も増えた。	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	就学までに経験させたいことを意識し、0歳児からの連続性をもった教育・保育を行っている	園内研修で、教育課程を基に学年ごとの育ちや子どもの実態をおさえたことで、発達の段階を捉えながら教育、保育活動を行うことが出来た。0歳から就学までの連続性を意識する為、異年齢とのかかわりを増やしていく。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭遊びなどで、それぞれの遊びをしていても、年上の子や周りの子の様子を見て、活動ができる。そのような環境があることで、連続性を持った教育・保育活動が行われていると言えるのではないかと 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達に応じたかかわりができるよう、会議や研修の場で発達を捉える ・保育者間での情報共有、他学年との連携を意識する
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の育ちや生活状況、家庭環境を考慮し、園児が安心して過ごせるような関わりや援助を行っている	A	A		
		(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもたちの「好き」の思いを捉えた遊びの環境を構成している	B	B		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	職員や子どもが自ら考えて行動できるように、様々な状況を想定した避難訓練、不審者訓練が行われている	様々な災害を想定し訓練を行うことで、子どもたちが自ら行動しようとする姿が増えている。減災教育の研修に多くの職員が参加することで職員の意識も変わった。事故報告書やヒヤリハットを発生後すぐに回覧し事故防止につなげている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の運動会を年長児が見に行くなど、園と学校がつながりを持ち、連携を取りながら教育・保育活動を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の規模などを想定して訓練を実施し、訓練後に振り返りを行い、状況に合わせた対応が出来ていたか検証するとともに、改善策については全ての職員に知らせていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	年齢や生活経験にあった基本的な生活習慣が身につくように家庭と連携を取りながら様々な場面で丁寧に指導している	日々の食事指導、月に一度の「食育の会」を通して子どもたちの健康意識が高まっている。また、学年に合わせた指導を行うことで基本的な生活習慣が身についている。生活習慣の習得には家庭との連携が必要なため、引き続き呼びかけを行っている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・『東豊力』を育てなくてはと、目指す子ども像を難しく考えすぎず、職員の中で園の目標と合わせて、柔軟にイメージが持てることよい。重点目標に対する子どもの育ちの説明から、日々の活動の中で子どもたちに『東豊力』が育っていることが分かる 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で生活習慣の指導に差があるため、子どもに育てたい姿を確認し、一貫した指導を行う。また生活面について保護者にドキュメンテーションで発信する
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	子ども一人一人の特性に応じた支援計画を作成し、職員間で共有しながら、園全体でサポートする体制をつくっている	サポートプランの作成や少人数でのグループ活動、ケース会議の実施、期ごとの保護者面談など、加配児へのサポート体制ができている。クラス担任への負担が大きく、園全体でのサポート体制づくりに難しさがある。	B	B		<ul style="list-style-type: none"> ・色々な立場の職員でサポートプランを見る時間を作り、支援方法を共有する。 ・月に1回または2か月に1回ケース会議を行う
5 組織運営	(1)組織体制の充実	各職員が自分の分掌の役割を理解し、リーダーを中心に全職員で協力的に準備や取り組みが行われている	各分掌のリーダーが自覚や責任をもって行事や研修などの準備を行い、フリー職員が作業を進めるなど、園全体で役割分担し業務を行っている。分掌の話し合い、クラス間での声の掛け合いが少なく進捗状況等の共有に難しさがある。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人、こと、ものに多面的に関わり、体験的に学んでいる。自分の言葉でアウトプットし、子ども同士で励まし合う、園の教育と地域とのつながりがある、園の教育と地域とのつながりがある、子どもが育っていることが分かる 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取り組み、来年度への引継ぎ事項を記録に残しファイリングしておく ・年度の中間で分掌の振り返りを行い、それぞれの取り組みについて共有する
6 研 修	(1)研修体制の充実	研修テーマ「子どもの『好き』を支える援助」の手立てを実践し、園内研修やランチタイムを通して職員全体で学びを深めていく	職員全体で研修テーマを理解し、子どもの好きを捉えることを意識している。「好き」を見つける研修を積み重ねることで子どもの「好き」を捉える目も深まってきた。保育時間内の研修だと参加できない職員がいることが課題である。	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ・全ての職員が研修にかかわる方法を検討し全員で学びを深めていく。また、園内研修が公開保育だけにならないよう教材研究や特別支援などを取り入れていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	素材や教材の使い方、遊び方、用意の仕方などを考えたり、遊び地図を作成し、子どもの思いや興味・関心に合わせた環境の準備を行っている	遊び地図についての話し合いを担任、幼児担当、乳児担当と継続的に行い環境につなげることで、子どもたちが「好き」を見つけ遊ぶ姿がある。保育教諭が遊びの展開を予想する力をさらに高め、教材研究を行っていききたい。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩マップで、園周辺のどこに木の実は落ちていないかなど掲示し、自然環境にも触れることができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境について話し合う機会を増やし、子どもの「いま」を逃さないように環境づくりを行う。また、廃材遊びが盛んなので、製作遊びが楽しめる環境を作る
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもの日々の姿や遊びの中でどんな『好き』を見つけているのかを写真を使い連絡帳やドキュメンテーションで発信し、子どもの育ちを共有している	その日の子どもの様子や行事の取り組みなどについてコドモンや掲示板で発信し、送迎時に保護者に丁寧に伝えている。コドモン連絡帳への記入がない家庭は、家庭での状況を把握することや子どもの成長を共有することが難しい場合がある。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・どこまで達成すればA評価になるのか？職員の目標設定が高く、自分に厳しい傾向がある。自身の業務に対して評価するのではなく、子どもの育ちに対して評価をすればいいのではないかと 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事などにかかわらず、日々の姿も写真に収め、折に触れてドキュメンテーションで発信する。タブレットやコドモンアプリの操作を学ぶ機会を作っていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	東豊力を意識した教育・保育活動を展開し、計画的に園小中学校との交流が行われている	小学校へどんぐり拾いに出かけたり、小学生が地域探検で園に来たり、中学生が家庭科の授業で体験に来たりと交流が年々増えている。職員が『東豊力』を意識し、12年間の教育活動に見通しを持てるようにしていきたい。	B	A		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校のグラウンドで遊ばせてもらう機会や東豊田こども園との交流を増やす ・TOHOの研修になるべく多くの職員が参加できるようにする
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	子どもが地域の良さを感じるよう、地域資源、自然、人材を活かした行事が行われている	焼き芋、絵本の読み聞かせ、動物園学びプロジェクト、囲碁教室、池田公民館への作品展示、S型サーベス訪問など地域の方の協力を得ながら教育、保育活動を進めている。散歩に出かける機会が少なく、地域探検をすることが難しい。	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ・季節に応じて散歩を計画し、園外の施設や近隣の公園などに行く機会を増やす。また、地域を知るための活動などを保育に取り入れていく